宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社
宗像会
〒811-35 福岡県宗像郡玄海町
電話 0940-62-1311㈹
定価 一年送料共 1000円

神具・装束
結婚式場用品
株式会社 井筒
福岡店 福岡(九二)六五一-九四五八番
本店 京都市下京区油小路六条北入 電話 京都(〇七五)三三四一代〜三三三四一番
〒812-600

平成三年度 神道国際友好会総会

世界の宗教・文化の実情を把握しようと、海外宗教事情の視察や各宗教界、学術団体との交流を深め、世界平和に寄与すると共に、会員相互の研修・親睦を目的に積極的に活動を行っている、神道国際友好会（会長岡本健治熱田神宮宮司）の平成三年度総会が、六月十七日・十八日の両日、当大社並びに神湊スカイホテルで開催された。

神道国際友好会は、全国各地の神社・個人等で組織されており、本年度総会にも約五十名の会員が遠路出席。総会は、一年に一度の親睦を深める場だけに、終始和やかな雰囲気で行われた。

六月十七日正午過ぎより出席者が三々五々来宮。午後二時には半数以上の会員が参集し、当大社神宝館を養父宮司の案内説明で拝観。同三時正式参拝、岡本会長の玉串奉奠に合わせて全員で拝礼した。参拝後本殿をバックに記念撮影を行って、総会々場の神湊スカイホテルへ席を移した。

会員各自同ホテルのチェックインを済ませ直ちに会議を開催。先ず当大社養父宮司が歓迎の挨拶を兼ねて開会の辞を述べ、続いて岡本会長の挨拶の後、早速議事に入った。

議事は最初に全員一致で岡本会長を議長に選出、岡本議長の進行により、昨年度の事業報告と会計報告が事務局よりなされ一同了承。次に本年度の事業計画を審議するにあたり、熱田神宮の岡地権宮司より事業並びに会計年度の変更が提案され、従来の四月一日年度開始、翌年三月三十一日終了を、平成四年度より一月一日開始、十二月三十一日終了の変更案が可決された。これを受けて本年度の事業を四月一日〜十二月三十一日迄とすることで一同了承。それに伴い本年度の海外宗教事情視察は行わず、第十九回神道海外交流を、平成四年度の事業として、平成四年三月二日〜十一日迄の十日間の日程で、モロッコ・南スペインの宗教事情視察を行うことに決定して議事を終了。最後に第十八回神道海外交流北欧諸国宗教事情視察団の詳細な報告が団長の上杉諏訪神社宮司よりなされ、宇治土公猿田彦神社宮司の閉会の辞を以って総会は滞りなく終了した。

総会終了後、全員一旦入浴、旅の疲れを癒して、午後六時より浴衣姿のくつろいだ雰囲気で懇親会を行い、副島光明沿神宮権宮司の発声で乾杯、一同玄海の新鮮な海の幸に舌鼓を打ちながら一年振りの再会に話もはずんだ。同八時からは席を移して更に懇親を深め、当大社神島祢宜をリーダーとし氏子青年達で組織する神郡フォルクローレの南米音楽を聞きながら、午後九時半迄の楽しい一刻を過ごした。

翌十八日は、朝食後岡本会長を始め約半数の方々が所用の為やむを得ず帰社されたが、二十名の会員が吉野ヶ里遺跡の見学に参加、午前中我が国最大の環濠集落遺跡を見学し、博多にて昼食の後来年の再会を約して散会、平成三年度の神道国際友好会総会の全てを終了した。

全国家庭児童調査結果の概要

平成元年度の「全国家庭児童調査結果の概要」が労働省児童家庭局から発表された。児童福祉行政推進のための基礎資料を得ることを目的に、十八歳未満の児童及びその児童のいる世帯を客体として行われたものである。

一世帯当たりの平均児童数は一・八九人、これはほかの調査でもほぼ同じ数で、子どもの数が極めて少ないことを示している。

このように子どもの数が少ない上に、生活が豊かになったので、一人一人の子どもは大事に育てられ優遇されている。子ども部屋のある世帯は六九・八%で、戦前は考えられなかったことである。一人一人を大事に育てることは結構なことには違いないが、ややもすれば過保護に陥り、そこから歪みも生じているように思われる。

○

養育上問題があるとして挙げられているものの第一位は「学校の成績・進学」で総数の一一・一%、中学生をもつ世帯では二三・七%に及んでいる。この問題についての関心の深さ、悩みといったものはこの調査にも如実に表われている。第二位は「偏食」で八・八%、これは過保護、しつけのあまさがもたらしたものであろう。第三位は「意思が弱い」六・三%、第四位は「孤立・内気」二・七%、これらも兄弟姉妹が少ないこと、あるいは過保護から、きた問題であろう。

さて、今日社会問題としてしばしばジャーナリズムに取り上げられる「登校拒否」「反抗・乱暴」「非行」等はどうであろうか。

先に発表された文部省の学校基本調査によると、平成元年度に「学校嫌い」を理由に年間五十日以上連続欠席している児童・生徒数は、小学校七千百七十八人、中学校四万八十人、小学生の千三百三十八人に一人、中学生の百四十人に一人の割合である。しかし、これは五十日以上の連続欠席を示したもので、四十日とか三十日とか、以下の連続欠席を加えたらその数はもっと多くなるに違いない。

「全国家庭児童調査結果」によると、「登校拒否」小学校一〜三年〇・三%、小学校四〜六年〇・二%、中学校〇・四%、高校等〇・六%となっている。

これは養育上の問題として挙げられたもので、文部省の登校拒否の割合に比べて、小学校は高く、中学校は低くなっている。親の意識を示したものであるから、その間の差は当然のことであるが、ただ平均的な家族の問題からすれば、「登校拒否」等は「学校の成績・進学」に比べものにならない数字であることは注目してよい。もちろん、割合が低い故に軽視してよいということではない。

「反抗・乱暴」では、小学校四〜六年の三・〇%が小中高の中では最も高く、「非行」では高校の〇・三%が最も高い数字になっている。養育上の問題として挙げられたもの、すべて今日の日本社会の反映であり、歪みを示している。

○

この調査には、子どもたちの状況調査として「終業後のクラブ活動・塾等の状況」のほかに「遊び場の状況」が報告されている。それによると、「家から3km以内の所にある」遊び場で「週一回以上」遊んでいる所は、小学校一〜三年では、一位「自分の家」八三・一%、二位「友達の家」七六・五%、三位「公園」五七・六%、四位「車のあまり通らない道路」五三・七%、五位「空き地」四四・一%となっている。小学校四〜六年になると五位の中に「学校の校庭や体育館」、中学校や高校ではさらに「本屋やレコード店」「商店街やデパート」が入ってくる。

昔なら当然五位以内に入ると思われる「神社やお寺」は、小学校一〜三年で、「商店街やデパート」に次いで第七位の一三・三%、小学校四〜六年では第八位の一〇・三%という順位になっている。これにはいろいろな理由が考えられるが、この事実は、信仰の面から、また保育の面から、神社界としても無関心ではおれないことである。

○

一体に子どもたちは、パソコンなど家の中での遊びに熱中し、外では遊ばなくなっているが、これは望ましいことではない。養育上の問題として挙げられた「意思が弱い」「孤立・内気」あるいは「緘黙」などは、この遊びの状況と深く関わっている。外での遊び場としては「神社やお寺」は最も健康で安全な場所であることは言うまでもない。

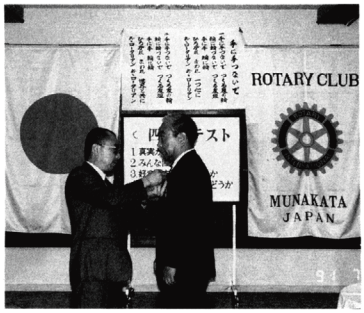
（神社新報より）

暑中御見舞申し上げます

出光

SI 出光興産株式会社
取締役 福岡支店長 沖 禎一郎
福岡市中央区大名2丁目8番26号
TEL 092-761-1831

宗像ロータリークラブ
一九九一・九二年度会長に
養父宮司就任



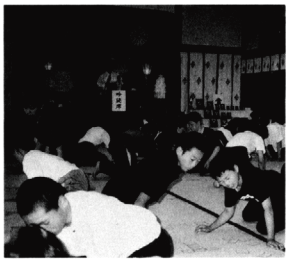
宗像市郡をテリトリーとして活動している、宗像ロータリークラブ（会員四十一名）の一九九一・九二年度会長に当大社養父宮司が就任、七月一日より来年六月三十日迄の一年間、同クラブのリーダーを務める。

宗像ロータリークラブは、昭和六十一年五月七日、故葦津前宮司を特別代表とし宗像市郡内の各界名士二十五名をメンバーに創立された。創立以来「各自が携わる業務の道徳的水準を高め、その業務を通じて社会奉仕に務め、メンバー、クラブ同志はもちろん国家間の親交を深めると共に、国際親善と世界平和に寄与する」を基本理念に、四つのテスト「一、真実かどうか、二、みんなに公平か、三、好意と友情を深めるか、四、みんなのためになるかどうか」を指針として活動している。

会長に就任した養父宮司は、昭和六十一年七月同クラブ入会、以来職業奉仕委員会（二期所属）、例会親睦委員会委員長（理事）、副会長を歴任、その人望とリーダーシップは入会時より高く評価され、真摯なロータリアンとして活躍して来た。

今回の会長就任に伴い、「『和を以って貴しとなす』をモットーに向う一年、ロータリークラブの基本理念に則り地域の社会奉仕に努めたい」と所感を述べていた。

第十五回
宗像大社小倉百人一首かるた大会



我が国の伝統文化護持・青少年の情操教育の一助にと毎年行っている、宗像大社小倉百人一首かるた大会（主催＝宗像大社、協力＝九州かるた協会、後援＝全日本かるた協会他）が、六月九日・十六日の二日に亘り、当大社儀式殿・清明殿・斎館の三会場で開催され、熱戦が繰り広げられた。

本大会は、かるた愛好者にとっては西日本でも権威のある大会として定評があり、毎年全国各地の実力者が出場している。十五回目を迎えた今年の大会にも、九州各県はもとより関東・関西・中国各地から約三百数十名が参加、各級、各部で数分の一秒を競う妙技を披露した。

A級の決勝戦は元クイーンの北野六段（奈良県）と伊藤六段（宮崎県）の遠来組の対戦となり、互に譲らず、最後の最後迄どちらに勝利の女神が微笑むかわからぬ緊迫した好勝負を展開したが、一枚差で北野六段に凱歌があがった。

尚各級・各部の成績は左記の通りである。

◇A級（四段以上）
優勝　北野　律子（奈良県）
二位　伊藤　裕之（宮崎県）
三位　上原　正義（宮崎県）
〃　渡辺　純子（大分県）

◇B級（三・二段）
優勝　島田　雅子（和白ヶ丘中）
二位　内川　晶子（福岡市）
三位　松野　邦治（熊本西高）
〃　沢江　裕子（益田高）

◇C級（初段）
優勝　中島　聖二（宮崎北高）
二位　塚本　和幸（九州大）
三位　上山　光美（熊本西高）
〃　松尾かをる（筑紫女学園高）

◇D級・高校生以上の部
優勝　久光　洋子（筑紫女学園中教諭）
二位　高場　光春（福岡高）
三位　喜多村通子（福岡高）
〃　川村　明（福岡高）

中学生の部
優勝　藤　真由美（宇美東中）
優勝　宮藤　優芽（高津中）
二位　小原しのぶ（豊陽中）
〃　藤崎しおり（古賀北中）
三位　中野　由一（宇美東中）
〃　團　裕子（福間中）
〃　田中　友美（筑紫女学園中）
〃　成富　香織（筑紫女学園中）

小学生の部
優勝　三浦さやか（高津小）
優勝　三浦　和香（高津小）
二位　三浦　景子（益田小）
〃　岡本　智子（益田小）
三位　長谷　正宏（益田小）
〃　伊藤　優美（安田小）
〃　永田康太郎（益田小）
〃　諫山　清香（咸宜小）

◇E級・一般の部
優勝　奥塚久美子（中津南高）
二位　細川　玲子（北九州市）
三位　田中美保子（中津北高）
〃　三谷スエ子（行橋市）

小学生の部
優勝　石橋　薫（高津小）
優勝　渕　三環子（咸宜小）
二位　諫本　光栄（咸宜小）
〃　松岡　夏江（咸宜小）
三位　脇　まどか（桜原小）
〃　織田　良美（桜原小）
〃　宮藤　真湖（高津小）
〃　森山　陽介（美和台小）

◇F級入賞
吉原蘭子（福岡市）・相浦恵美（桜原小）・大八木光恵（古賀北中）・藤敬三（桜原小）・御手洗絵里（須恵第二小）

いよいよ夏本番
玄海町で海開き

夏の海水浴シーズンを目前に控え、梅雨もひと休みとなった七月三日午前十一時より、玄海町鐘崎漁港で同町観光協会主催による海開き・水神祭が執行された。

祭典には、小林観光協会々長、和田玄海町長、松井町議会議長を始め来賓、関係者約百五十名が参列し、この夏の海の安全を祈念した。

祭典終了後、鐘崎・江口・神湊の玄海町内海水浴場を隈無く祓清め、本格的な夏を迎えるにあたっての神事は滞り無く終了した。

一方、玄海町は新鮮な海の幸を賞味できる魚処としてつとに有名で、町内の旅館等では年間数百万尾の鯛を始めとする魚が料理される。この魚の供養をと、恒例の鯛の放流が祭場脇の岩壁で行われ、体長三十㌢前後の鯛を放流、地元の人々の様々な願いを背に、大海原へと帰って行った。

今年の夏も、県内はもとより県外からも多くの人々が海水浴に、海の幸の賞味にと玄海町を訪れるであろうが、全ての人達が水難事故にあうことなく、夏の楽しい思い出を沢山作っていただきたいものである。

第三六一回 宗像大社歌会詠草
中村吾郎選
毎月末日〆切

椎の花土見えぬまで散り敷きて梅雨に入るらし小雨又降る
（評）清純で素直な発想が優れていて、どこをどう除いても一首は崩れる。下句の感情移入もそつがない。
武丸　中村さつき

草焼の煙りうすれて棚引けり夕茜する山は深みどり
（評）上下句いずれも表現巧みではあるが感動の中心が明らかでない。どちらかに重点を置きたい。
八幡西　山田アヤ子

老いづけば夜半に目覚むる事多しラジオの深夜放送イヤホンで聞く
名古屋　小田　留子
河東　薄　かほる

木もれ日を浴びつつ一人もぐ梅も手の血脈も青く息づく
（評）一首はすべて下句に集約されていて克明な描写が印象を強くする。詰句に於て更に膨らみを見する。
田久　立花　勇雄

母を呼ぶこの幼さや少年はすばしこく這ふ蜘蛛に怯ゆる
田熊　鷲頭かつ代

限りなく車窓に見ゆる椰子原は照り渡る強き午後の日反す
小倉北　松木　政子

幾度か霧笛のにぶく響き来て静もる朝の床にさめをり
大島　目原　節子

朝よりの雨にぬれたる子燕が肩よせあいて梁に止まれり
八幡西　川崎　ウラ

夕べには閉ぢる牡丹に熊蜂の蜜を吸ひをり逆さになりて
八幡東　古賀ハツネ

霧雨に濡れつゝ交互に白く輝る葉裏を返す山の雑木々
徳重　石松や寿子

朝夕を峡に鳴きつぐホトトギス野生の恋の季節なのかも
八幡西　山田　耕夕

窓あけて鈴蘭匂ふ庭を見る心の奥に手を合はせつゝ
吉留　高山　信子

脱ぎ置きし衣も乾きたたみをりミラノに帰る娘は今機上
大島　河野　英子

西南の役兵の雄叫びこもるがに彈痕無数の荻迫天満宮
自由ヶ丘　細川　絹子

老いづけば夜半に目覚むる事多しラジオの深夜放送イヤホンで聞く
田久　立花　勇雄

名古屋　小田　留子

時間をば鐘で告げいし校舎消え鉄筋の窓にベル鳴り渡る
小倉北　槇原　静子

枕辺にカーネーションの朱むなし母九十の生涯終へぬ
池田　小田　イセ

観衆を湧かせたる横綱も人の子か土俵に己の限界を知る
吉留　白木うめの

老づきて失ふものの多くなり欠けたる奥歯ポケットに入るる
赤間ヶ丘　松本　澄子

天草の大海原に雲染めて夕日沈むを旅に来て見る
大島　屋形トミエ

車椅子に乗りて送りし妹のギプスの足は白く重たし
八幡東　岡本　初音

改築の成りて一年やうやくに慣れしもいまだ古き家偲ぶ
光岡　竹浦　葛明

出窓辺のヒマラヤ杉に雉鳩は巣籠りおりてたじろぎもせず
福岡東　清原　絹代

虎の尾の代りに今年は菜の花の溢るる土手に見放けて過ぐる
朝町　古田千代子

日和日に菊の移植を終えし夜雨降る予報に心安らぐ
原町　八波　五月

共に行きし人幾人か今は亡く樹氷輝きし天鳴峠

暑中御見舞申し上げます

西日本銀行

自由ヶ丘支店
支店長　熊懐輝雄
宗像市自由ヶ丘二丁目七－七
TEL　〇九四〇－三三－五一五一

日の里支店
支店長　八坂俊暉
宗像市日の里一丁目六－〇四－一
TEL　〇九四〇－三六－二八八一

福間支店
支店長　坂口宣義
福間町大和町二七三八－一〇
TEL　〇九四〇－四二－一二三一

赤間支店
支店長　高山寛
宗像市大字土穴三九七－九
TEL　〇九四〇－三三－五五六五

福岡銀行

宗像支店
支店長　浦田一光
宗像市大字東郷九一八－一
TEL　〇九四〇－三六－二〇一七

福間支店
支店長　荒巻猛
福間町二七二六－五
TEL　〇九四〇－四二－一二四六

赤間支店
支店長　吉里勇
宗像市大字土穴三八八－一
TEL　〇九四〇－三三－七二一一

第六回〝つやざき〟海のページェント
津屋崎海岸に砂の彫像

県内屈指の海水浴場、宗像郡津屋崎町の津屋崎海岸で、六月九日（日）「創造・ふれあい・自然との調和」をスローガンに、「足早い夏のイベント、第六回〝つやざき〟海のページェントが開催された。

このイベントでは、メインの砂の芸術コンテスト「サンドアート・コンテスト」を始め地引き網や鮮魚のセリ売りなどが行われ、約一〇〇〇名の人々が参加津屋崎・宮司浜海水浴場ビーチは終日大いに賑った。

サンドアート・コンテストには一般の部四十六チームが県内各地から、また小中学生の部には宗像郡市内を中心に五十八チーム、計一〇四チーム七〇〇名余りが参加、砂・海水・海藻・貝殻などを素材に制限時間三時間で砂の彫像に挑戦した。参加者は全員汗だくになりながら奮闘、いずれおとらぬ力作が海岸線いっぱいに製作され、訪れた人達を大いに楽しませた。

このコンテストは、自然とのふれあいを通して、何かを創造する楽しさ、素晴らしさを多くの人に体験してもらいたいとの願いから始められたもので、今では津屋崎町の名物イベントとなっている。

尚各部の受賞チーム、題名は左記の通りである。

◇一般の部

グランプリ賞
「スフィンクス」
ファミリーチーム（北九州市）

金賞
「犬の親子」
岡村チーム（津屋崎町）
「生涯学習」
仲よしチーム（〃）
「でんでん虫」
ヘンチャーズ（〃）

銀賞
「ステゴザウルス」（恐竜クラブ）・「狩り」（チャップス）・「くじらとゆかいな仲間たち」（海っち、浜っち、ちょっち、まっち）・「釈迦ねはん像」（じいちゃん）・「ザリガニ」（オトさんファミリー）

特別賞
「三世紀への空間」（波平さんどこ）・「さようならの大仏」（キャッツ）・「一〇〇m自由形」（助人理ちゃん）

◇小中学生の部

グランプリ賞
「森の温泉」
元祖宗像ひと塾（古賀養護学校）

金賞
「汗と涙の結晶」
三年二組の仲間達（津屋崎町）
「手の上のカタツムリ」
日佐中美術部（福間町）

銀賞
「ガリバー」（ワンパク）・「足」（河辺チーム）

特別賞
「まねきねこ」（宗像柏屋子供劇場A）・「F」（宗像柏屋子供劇場B）・「オリジナルスフィンクス」（一年男子卓球部）・「お城」（ボール牧）・「お城」（佐々木プー）・「ゴジラ」（マイケルCAT）・「きょうりゅう」（ラッキーA）

全国広報コンクールで第一席
宗像市の「とびうめ国体」ポスターが受賞

昨年本県で開催された、「とびうめ国体」に際し、少年女子バスケットボール競技の会場となった宗像市製作の国体PRポスターが、平成二年度全国広報コンクール・広報ポスター部門で全国第一席となり、八月二十九日・三十日に熊本市で行われる全国広報大会で表彰される。

同市では、この少年女子バスケットボール競技主管にあたり、「市民参加の国体」を目指して、そのPR並びに市民の理解と協力を得ようと、国民体育大会宗像市実行委員会を組織し、PRポスターも同実行委員会が企画、市内の小学校、中学校、高校のバスケットボール部男女キャプテンなどの協力で製作した。

このポスターは、バスケットボールのアルファベット文字板と男女キャプテンを一緒に写真に収めたB全判で、昨年十二月の県広報コンクールに於て最優秀賞を受賞し、県代表の作品として、全国広報コンクールに出展、今回の栄誉に輝いた。

ポスター製作にあたり、図案・構成などは同実行委員会が考案したが、バスケットボール部キャプテン達はもちろん、市役所、カメラマン、看板屋さん達も積極的に参画、国体を是非成功させようと全員が一致協力して取り組んだ。

今回の全国第一席受賞に、ポスター製作に携わった秘書課広報公聴係の吉原賢治さん（32）は「こんなに高い評価をいただくとは思ってもいませんでした。みなさんの力の結集の成果です」と語っていた。

県消防救助大会
宗像地区消防本部が大活躍

県内消防署員の人命救助技術の向上を図る目的に、六月十四日宗像郡福間町の県消防学校で行われた、県消防救助大会で、宗像地区消防本部のチーム・隊員が大活躍、九州大会の出場権を手にした。

この大会は、災害時に於ける救助技術のスピード、正確性、安全性などを競う大会で、八メートルの高い所から救助する高所人命救助や二つの塔の間に張ったロープを渡るロープブリッジ渡りなど九種目がある。

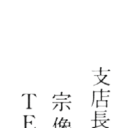
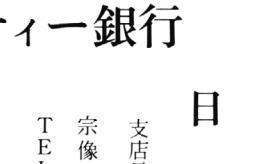
大会には県内二十四の消防本部から二二九チーム、延べ約六〇〇名が参加、日頃鍛練した技術を披露した。特に今年は雲仙・普賢岳の噴火による災害が起きたばかりで、どの隊員も例年以上に緊張、本番さながらの真剣な表情で競技に臨んでいた。

宗像地区消防本部の隊員は、この緊迫した雰囲気の中沈着冷静、迅速正確に競技し、ロープブリッジ救出の部で花田チーム、高所人命救助の部で遠藤チーム、ロープ応用登攀の部で日野、中垣両チームが、また個人種目では、はしご登攀の部で永島英親、北野真市、神谷佳朗の三隊員がそれぞれ入賞、七月十九日に北九州市で行われる九州大会で、全国大会への出場を目指す。

同本部では、今回の隊員達の大活躍に「災害救助にシーズンオフはないと練習を重ねてきた成果」と喜び、全国大会出場という大きな目標に向って、より訓練に励んでいる。

社務日誌抄

六月一日　月次祭
六月一日　神湊田中駒雄氏外十二名参拝喜寿報賽
並長寿祈願祭斎行
大野城市今泉康秀氏三女神画奉納
六月三日　出光興産㈱事務系新入社員十三名参拝
入社奉告祭斎行
六月四日　福島県神社庁いわき支部副支部長金賀元彦氏外五名参拝
六月六日　出光興産㈱福岡支店副支店長井上修氏転任挨拶の為来社
六月八日　皇学館大学教授渡辺寛氏外熱田の森文化センター十三名参拝
六月九日　大阪思成会平松氏外三十三名参拝
熱田の森文化センター一行神津宮参拝
第十五回宗像大社小倉百人一首かるた大会
六月十日　埼玉県立博物館塩野氏来社
六月十一日　宗像大社責任役員旅行四名出向（十四日迄）
六月十四日　日本ゼオン㈱所長佐伯康治氏・福岡県企画振興部県民生活局波呂喜代子氏外十名来社
六月十五日　月次祭
職員会議
出光興産㈱福岡支店総務課長橋本敦男氏来社
六月十六日　太宰府天満宮飛梅講社理事常本利雄氏外十一名参拝・同天満宮祢宜木本満氏引率
大阪國学院同窓会野口太郎氏外二十六名参拝
旭興産㈱代表取締役山崎恒氏外十二名参拝
第十五回宗像大社小倉百人一首かるた大会
六月十七日　神道国際友好会平成三年度総会於神湊スカイホテル四十七名出席
六月二十四日　福岡県警事故処理車贈呈式同交通部長笠原孝志氏・県自動車学校協会長中村半氏外二十四名参拝
六月二十五日　山口県降松神社宮司神足正己氏外氏神講員四十五名参拝
六月二十六日　出光興産㈱福岡支店総務課長橋本敦男氏転任挨拶・新総務課長福地千秋氏赴任挨拶の為来社
六月二十七日　宗像大社氏子会評議員会
六月二十八日　出光興産㈱名古屋支店販売一課石田秀雄氏、名古屋空港給油施設㈱専務取締役遠山英雄氏外二名参拝
六月二十九日　福岡県神社庁小倉支部長森山正従氏、八旗八幡神社宮司福江守輝氏・同支部神社総代会長其木則雄氏外六十名参拝
巫女浦安舞温習開始、多静子先生教示（七月一日迄）


暑中御見舞申し上げます


福岡シティー銀行
日の里支店
支店長　堀内靖郎
宗像市日の里一丁目二九－八
TEL　〇九四〇－三六－六七六七
赤間支店
支店長　麻川浩二
宗像市大字土穴字前田二〇一－二
TEL　〇九四〇－三三－三三四一

福岡中央銀行
自由ヶ丘支店
支店長　島田政雄
宗像市自由ヶ丘五－九七五－一一
TEL　〇九四〇－三三－三三二一

宗像農業協同組合
組合長理事　安部照生
宗像市大字東郷六一－一
TEL　〇九四〇－三六－四一一〇

福岡県中央信用組合
宗像支店
支店長　羽田徹
宗像市大字東郷九四四－一四
TEL　〇九四〇－三六－二一五二

宗像大社歌会

俳句作品集（三四〇）

若松　井手　清隆

老鶯や天の真名井はみち溢れ

藤沢　井上　玄洋

先ず咲きし花はみどりの七変化

福間　森　清

肥料播麦わら帽の無口なり

福間　広渡一寿軒

九十三歳齢満るや穂高豆

名古屋　小田　喜一

産卵の鯉ひしめきて川揺るる

名古屋　小田　留子

燕の子口を並べて待ちぬたり

福岡中央　力丸　玄風

禅寺の砂紋打ち消す男梅雨

日の里　花田いつ枝

木洩れ日をリュックが運ぶ山開き

津屋崎　西住喜三郎

舟に乗る舟虫故に追ひもせず

滋賀　岩瀬　辰夫

中庭が明るく見へる花菖蒲

田熊　安部　ゆき

名も知らぬ草も花つけ新樹光

田熊　力丸　一郎

吊り忍父の形見の五十年

津屋崎　井浦　良介

夜の藤肩組みくぐる縄のれん

（続）浜の寄物 58

大方町・砂浜美術館（二）

いしいただし

（入野浜のココヤシ作品）

この日は、南国土佐も小雪の舞う寒さであった。民宿の下は入野の浜である。この沖には黒潮本流が流れている。いつもそうだが、海に出るその一歩はわくわくする。風はなく、海は凪いでいた。

砂浜は玄界沿岸に比べ、やや黒ぽい。また起伏に富んだ砂丘はなく、平坦である。

玄界沿岸から、日本海側の海岸は、冬季に大陸から北西季節風が吹き、漂着物はその季節に多い。反対に太平洋側は陸から海のほうに吹くので漂着物は少ない。したがって太平洋側は、その逆になり夏に漂着物が多いのである。

しかし、波打ち際から離れた奥（陸地側）で、ココヤシの完形品を一個拾うことが出来た。それに干涸びたハリセンボンを多く見た。10センチ弱のものが多い。

宿に戻って朝食をすまして、荷物をまとめ公民館へ。漂着物の話をして、同町の井の岬の浜へ行くことになった。メンバーは二〇名ほどの砂美人連（サミット）で、みな熱心に作品の回収（漂着物採集）をされていた。ここの海岸は岩礁海岸で、大小の岩が浜を埋めつくしている。長さは約二〇〇メートルほどあろうか。

各自、それぞれ作品回収にはテーマがあり、ライターだけを集める人、貝殻、流木、漁具類という具合である。これだと他氏の領分を侵すこともない。

それにしても、プラスチックやビニール類の化学製品はすこぶる多く、岩の間に吹き上げられていた。

二時過ぎには高知方面への列車が出るので、皆と別れて浜をあとにした。楽しい漂着物採集であった。

後日、入野海岸で、同町の松本裕氏によって漂着しているビンが拾われた。ビンの中に一通の手紙が入っていたが、差出し地はアメリカ合衆国、テキサス州の少年からであった。ビンに番号がうたれ、日本語をはじめ数ヶ国語が書かれたコピーが入っていた。学校教育の一環として行われたようで、投ビン地も、メキシコ湾岸、太平洋側と数ヶ所を設定された可能性がある。テキサスだと、大西洋側で、日本への漂着は不可能に近い。学校ぐるみ、計画的に行われたものであろう。

さて四月下旬大方町では、漂流物展が開かれ、多くの見学者で賑い、新聞やテレビの取材もあったと聞いている。

もう一度、大方町砂浜美術館のパンフレットを開いてみよう。

砂浜が美術館だとすると…「美しい砂原」が作品です。沖に見える「くじら」が作品です。砂浜に咲く「らっきょう」が作品です。卵を産みにくる「海亀」が作品です。砂浜をはだしで走り、貝殻を探す「子供達」が作品です。流れ着く「漂流物」が作品です。波と風が砂浜にデザインする「模様」が作品です。砂浜に残った「小鳥のあしあと」が作品。作品は二四時間、三六五日展示され、時の流れるままに変化します。BGMは波の音、夜の照明は月の光……と。

リゾート開発に揺れ動く玄界沿岸、私達には、こんなに自然を暖かく見つめる感性を失ってはいまいか。

◉再度、私事で恐縮ですが「海の漂着物展」を、八月九日から十四日まで、名古屋の名鉄デパートで行います。

（大方町井ノ岬海岸漂着物さがし）

まつりと生活（三十九）

神社参拝作法

我々日本人は昔から、人生の折り目、節目、或は何か新しいことを始める時、困った時などに神社に参拝し、神様にお伺いをたて、成功することや御加護を得ることをお願いして来ました。そして、神社に参拝するときは、まず心身の穢れを祓清めて、神様の前に進むことが当然のこととされていました。

この伝統・風習が一つの作法として確立したのが神社参拝作法です。清浄であることを尊いこととするのは、日本人一般の感性と言えますが、特に神前に進む時は、より一層心身共に清浄であることを必要としたのです。

今回は神社参拝作法について少し述べてみます。

神社には必ず手水舎（てみずしゃ）があります。古くは神社の側に必ず川や霊泉などがあり、手水舎の役目を果たしていました。例えば伊勢の神宮の五十鈴川もその一つと言えます。人は特に水が穢れを取り除く清浄なものと考えて来たのです。

手水舎の水で身を清めることを、手水を取ると言いますが、その作法は、

一、まず右手に柄杓を持って水を汲み、左手にかけ左手を清めます。

二、次に左手に柄杓を持ちかえ同じように右手に注ぎ清めます。

三、再び右手に柄杓を持って水を汲み、それを左の手のひらに受けて、口をすすぎます。口をすいだらもう一度水を左手に流します。口をすすぐときは、直接柄杓を口につける人がいますがこれは誤りです。

四、最後に使用した柄杓は水できれいに洗い流し柄杓置きに伏せて置きます。

以上が手水の一般的な作法です。

手水舎で心身の穢れを落とし、神前に向かいます。神前に近づくと、拝殿や小さな神社では本殿の前に鈴や賽銭箱があります。一般的な参拝では、ここで賽銭を賽銭箱に入れ、鈴を鳴らして、二拝二拍手一拝（二礼二拍手一礼）の作法で拝礼をします。その作法をもう少し詳しく書きますと、

一、まず、直立の姿勢から深く腰を折り、頭をさげます。これを二回繰り返します。

二、次に両手を胸の高さに合わせ、右手を少し引いて二回拍手を打ちます。

三、その後両手を合わせ祈念します。

四、最後に手をおろし、最初と同様に拝を一回行います。

この拝礼の作法は、『魏志倭人伝』という中国の史書に、「倭人風習として、貴人に対して拍手をして跪拝をする」と記されており、この作法が日常の作法だったようです。

拍手と拝の形式は神社によっても異なり、手の打ち方にも、短拍手、八開手、忍手などの区別があります。

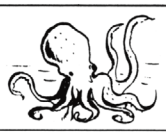
また拝には、坐って行う坐礼、立ったまま行う立礼などがあります。

その他、伊勢の神宮では八度拝・八開手、出雲大社では四拍手という作法を行っています。いずれも古来からの伝統的作法です。

このように神社に参拝するにも古来からの作法があるわけですが、これは何も特殊なものではありません。その精神は、「親しき仲にも礼儀あり」と言われているように、生活の根本であります。神様の前に立った時と同じように、いつも清らかな、すがすがしい心さえ持っていれば、何事もうまく行くはずです。一日一回時間を取り自分の心を見つめたいものです。

Y・S記

暑中御見舞申し上げます



玄海国定公園の中心…白砂青松の海水浴場…宗像大社からバス5分…神湊旅館組合

市外局番（0940）

魚屋旅館　電話 ○九四○－六二－二一二二番

みなと荘　電話 ○九四○－六二－二二五五番

玄海旅館　電話 ○九四○－六二－○○○一番

高嘉旅館　電話 ○九四○－六二－一二二一番

ニュー千鳥荘　電話 ○九四○－六二－○○六八番

大島屋旅館　電話 ○九四○－六二－○五五五番

松風荘　電話 ○九四○－六二－○一二○番

泉館旅館　電話 ○九四○－六二－○○三五番

魚庄　電話 ○九四○－六二－三三五五番

川口屋旅館　電話 ○九四○－六二－○○四八番

はま荘　電話 ○九四○－六二－○五○○番

神湊スカイホテル　電話 ○九四○－六二－三八○○番